

夏休みの自由研究を運用会社がお手伝い

日興 AM が小学生を対象に初の試み

運用会社が小学生向けセミナーを開催

日興アセットマネジメント株式会社（以下、日興 AM）は4日、小学生とその父兄をオフィスに招き、経済について親子で理解を深める「夏休み親子お金研究室」を開催した。

同社が投資啓発を目的に2008年に設立した日興 AM ファンドアカデミーは、主に金融機関の投信販売担当者を対象とした研修や、一般投資家向けにインターネット上での情報提供を行ってきた。今回は、教育関係者へのヒアリング調査をもとに、経済に興味を持ち始める年齢を小学高学年と推定、募集対象を小学5～6年生とした。景気や株価など、子どもたちが経済のテーマについて学ぶ機会を提供する、同社としては初の試みとなった。

会場には26組55人の親子が集まり、お小遣いと景気の関係といった身近なテーマから、業種別の株価予測まで、幅広いテーマが取り扱われた。株価予測では、自動車メーカーと飲料会社、ゲーム会社3業種のうち、将来株価が最も上昇する業種を選んだ理由を小学生自らが発表する姿も。比較分析に円高や少子高齢化といった影響要因を織り交ぜながら、大人顔負けの意見も交わされた。投資信託の仕組みについても、



ブロック製の投資信託を眺める子どもたち

子どもに馴染みやすいブロックの模型を用いた説明で「より多くの投資家に分散の大切さを伝えたい」（広報担当者）という同社の思いが、小学生にも親しみやすく理解を助けたのではないだろうか。

社内の運用現場も見学

夏休みの自由課題は、どの家庭も毎年悩まされるもの。小学生向けには、科学分野や職業体験などの催しが比較的良好に開催されているものの、お金や経済をテーマとするイベントやワークショップは少ない。このイベントはツアー形式で行なわれ、スタッフとともに、実際に運用部門の現場を見て周り、運用会社の様子を見学することもできる。

今回のイベントには、「親子でお金について話し合う機会がない」、「最近、円高や経済についての質問を子どもからされるようになった」ことをきっかけに、親子での参加を決めた親もみられた。このセミナーを終え、「今年は節電のため東証でのワークショップに参加できずこの研究室に参加したが、またぜひ続けて開催してほしい」というリクエストも寄せられている。



小島学長の授業にきき入る子どもたち